

オルガノ株式会社 2024年3月期 株主説明会資料

(証券コード：6368)

2024年6月27日

目 次

1. 水処理を支えるオルガノ
2. 24年3月期実績・25年3月期計画の概要
3. 中長期経営計画について

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

目 次

1. 水処理を支えるオルガノ
2. 24年3月期実績・25年3月期計画の概要
3. 中長期経営計画について

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

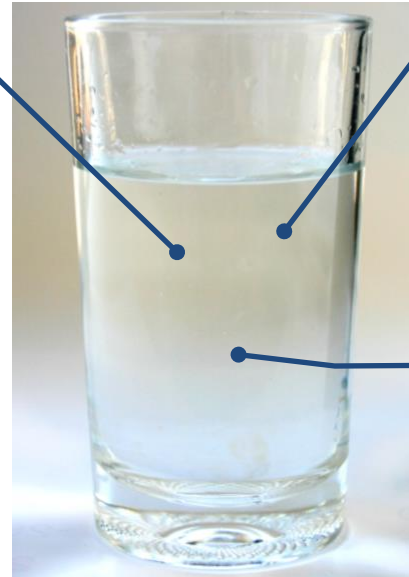
水処理の目的

水の中には・・・？

目に見えない微小なもの

- ：微生物
（バクテリア・ウィルス）
- ：土壌由来の懸濁
コロイド物質など

⇒MF/UFなど膜処理



目に見えるもの

- ：砂・泥・藻類など

⇒凝集沈殿・砂ろ過処理

水に溶解しているもの

- ：無機イオン～砂糖や塩など

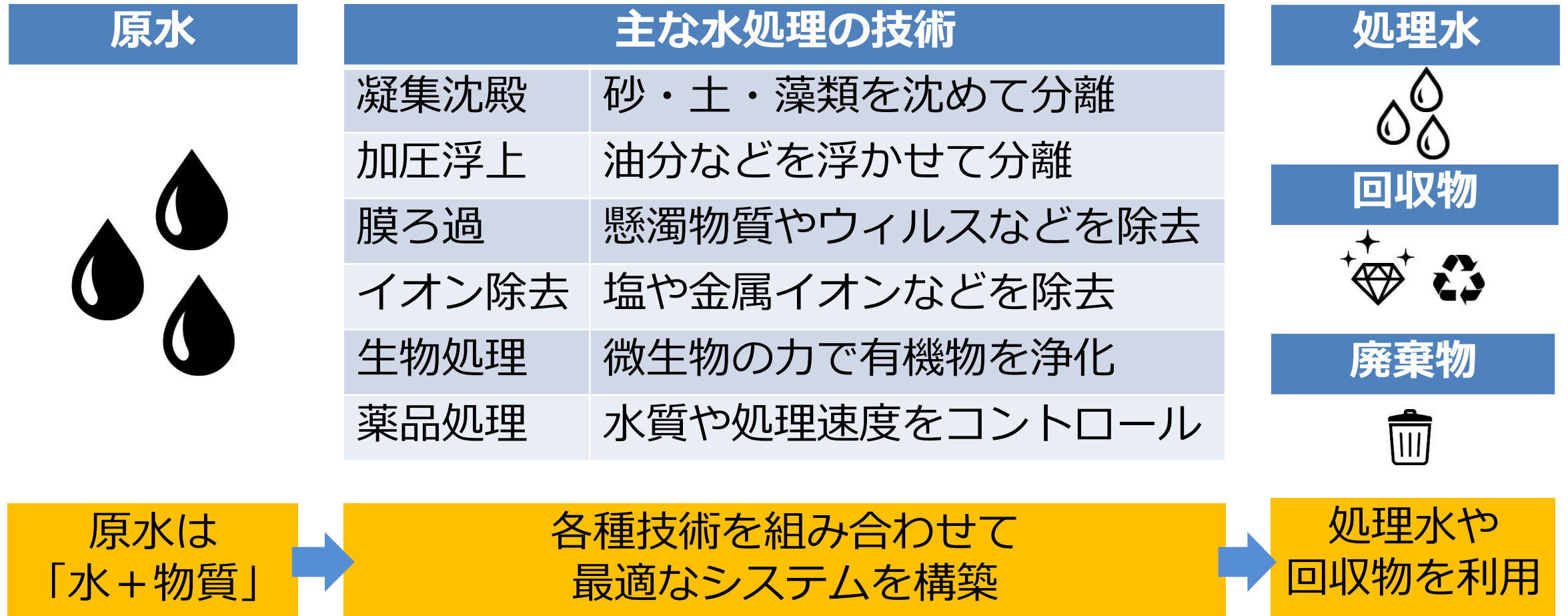
⇒RO膜・イオン交換処理

水処理とは「水質を目的・用途にあった最適な状態にすること」

CaやMgなどの硬度成分は飲料水・ミネラルウォーターには(適度に)
必要な成分だが、ボイラー用水や洗浄用水など工業用途では除去を行う

オルガノの技術

各種技術を組み合わせたシステムで必要な物質を分離・精製



純水・超純水とは・・・？

水中の成分・不純物を極限まで除去することで、
製品の歩留まり・品質向上、設備の安定運転などに貢献

■ 1ℓ 当たりの成分・不純物量比較



水道水の1/1億(0.000000003g)

水道水の1/10万(0.000003g)

(主な水处理技術)

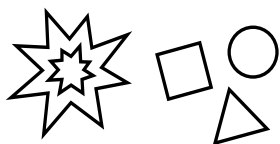
沈殿・砂ろ過処理

膜ろ過 (MF/UF) 処理

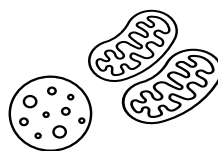
イオン交換樹脂・RO膜処理

- 半導体や電子部品等の洗浄
- 火力・原子力発電タービン用水
- 医療・研究機関等での微量分析

(主な成分・不純物)

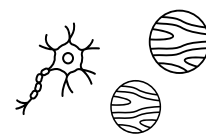


懸濁質 (砂・粘土)
~1mm



細菌・藻類
~1μm

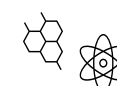
1μm=1千分の1mm



ウィルス・微粒子
~30nm



パーティクル
~10nm



糖類・溶解塩類
~1nm

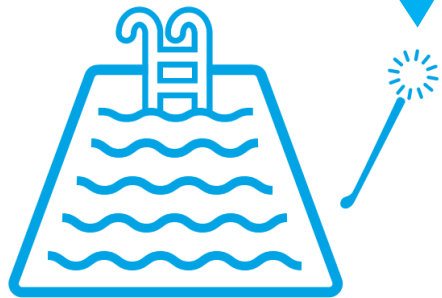
1nm=百万分の1mm

オルガノの3つの強み

高度な 分離精製技術と 分析技術

不要な成分を分離して除く

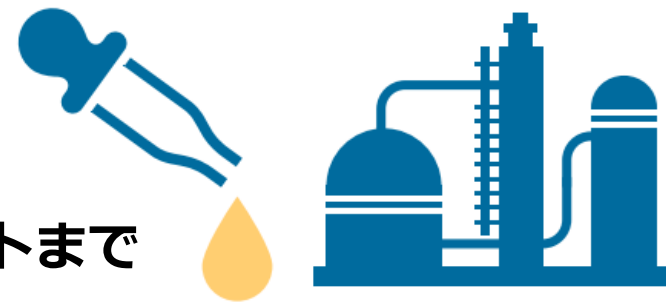
50mプールに耳かき1杯分



不純物濃度 1ppt以下

幅広い 対応 技術

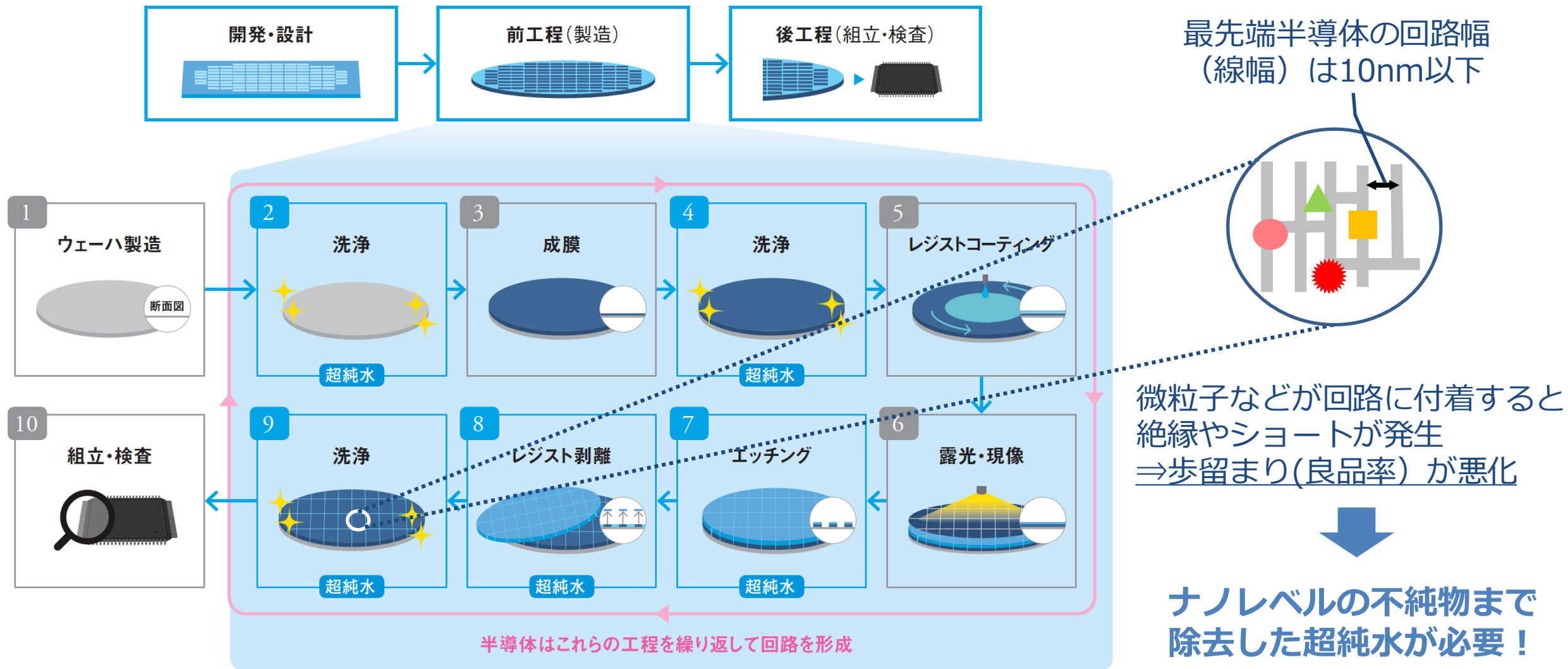
1滴から
大容量プラントまで



幅広い 実績



半導体製造工場向け超純水



目 次

1. 水処理を支えるオルガノ
2. 24年3月期実績・25年3月期計画の概要
3. 中長期経営計画について

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

24.3期実績・25.3期計画の概要

2024年3月期 実績

(単位：百万円)	24.3期実績	前期比	前回見込比 (2024.2.2)
受注高	144,468	-29,023 (-16.7%)	+968 (+0.7%)
売上高	150,356	+17,930 (+13.5%)	+356 (+0.2%)
営業利益	22,544	+7,332 (+48.2%)	+544 (+2.5%)
(%)	15.0%	+3.5pt	+0.3pt
ROE(%)	18.4%	+3.9pt	+1.7pt

- 受注高は大型案件が続いた前期の反動もあり減少もソリューション事業や一般産業など好調に推移
- 売上高は国内外で受注残案件の工事が順調に進捗。設備保有型などソリューション事業の伸長も寄与
- 営業利益は売上拡大の効果に加え、受注採算性の改善や原価低減などの取組みによって利益率が向上

2025年3月期 計画

(単位：百万円)	25.3期計画	前期比
受注高	155,000	+10,532 (+7.3%)
売上高	155,000	+4,644 (+3.1%)
営業利益	23,000	+456 (+2.0%)
(%)	14.8%	-0.2pt
ROE(%)	15.0%	-3.4pt

- 受注高は投資意欲活発な半導体分野を中心に、国内外で設備投資が高水準で推移することを想定
- 売上高は受注案件の工事進捗に加え、ソリューション事業の拡大や水処理薬品等の拡販も計画
- 営業利益は15%前後の利益率を維持。さらなる成長や納入キャパシティの拡大に向けた投資を強化

24.3期実績：セグメント別

水処理エンジニアリング事業

| プラント事業



純水・超純水設備
排水処理・回収設備
有価物回収設備
プロセス関連設備

| ソリューション事業

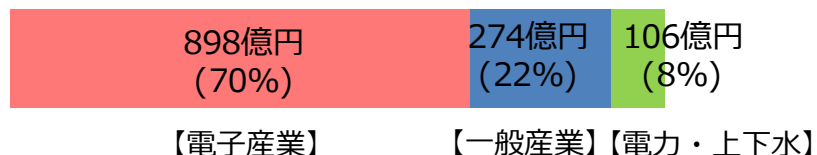


設備メンテナンス
運転管理・包括契約
設備増強・改造工事
水処理加工受託

| 事業別売上高



| 顧客分野別売上高



機能商品事業

| 水処理薬品事業



排水・冷却水・洗浄・
RO膜・ボイラ等処理剤

| 標準型水処理機器・フィルタ事業



純水・超純水装置
浄水フィルタ

| 食品事業



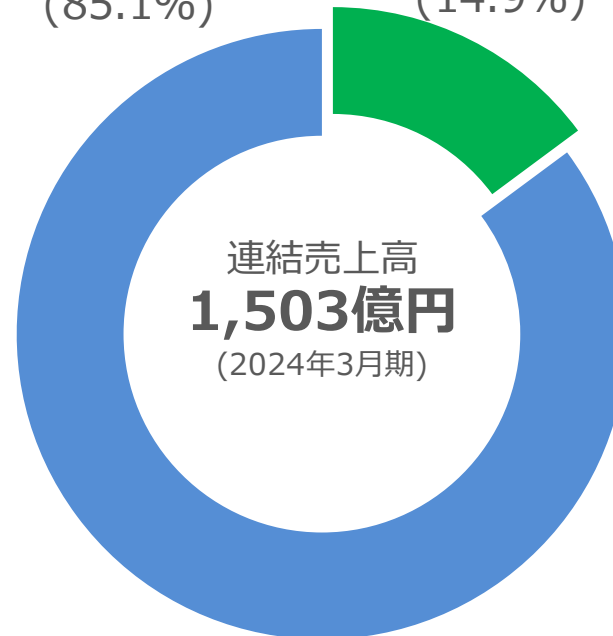
食品添加剂・加工剤
食品素材

| 事業別売上高



1,279億円
(85.1%)

223億円
(14.9%)



※金額は24.3期売上高、%は売上構成比率

目 次

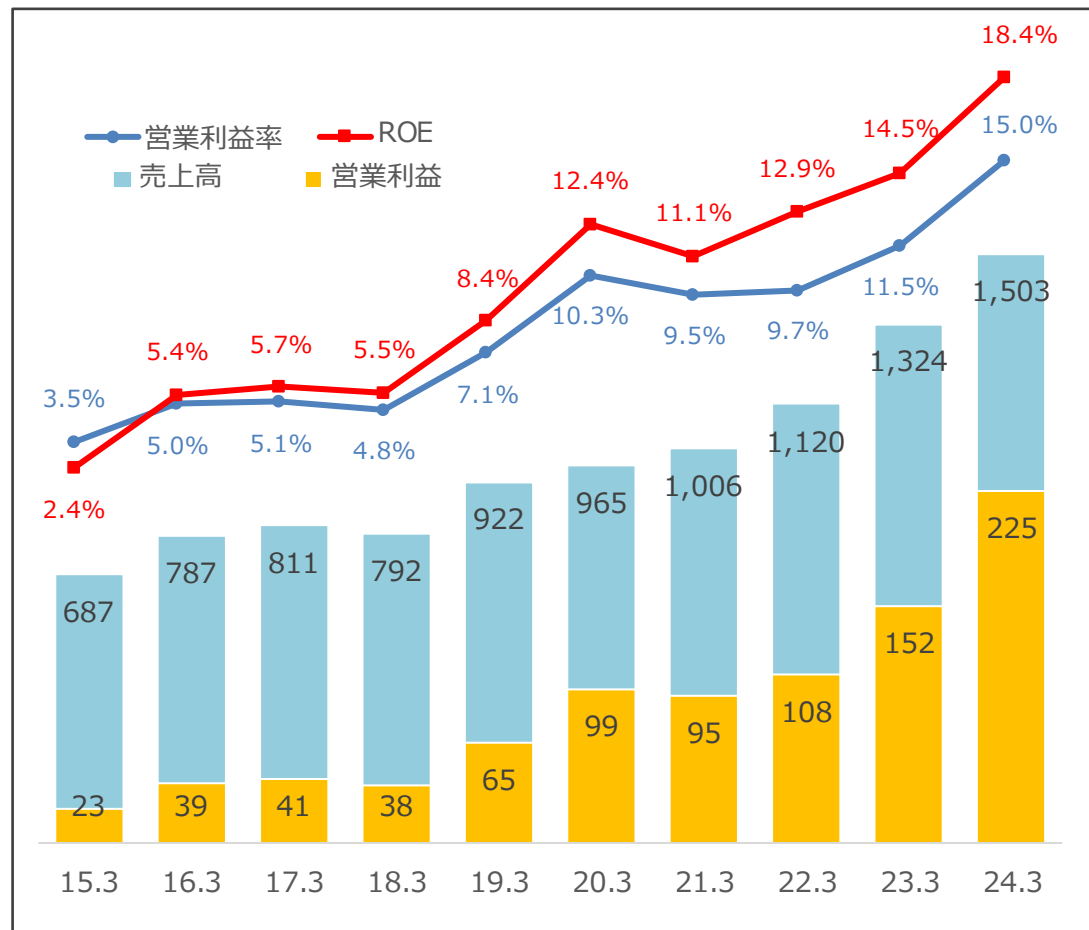
1. 水処理を支えるオルガノ
2. 24年3月期実績・25年3月期計画の概要
3. 中長期経営計画について

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

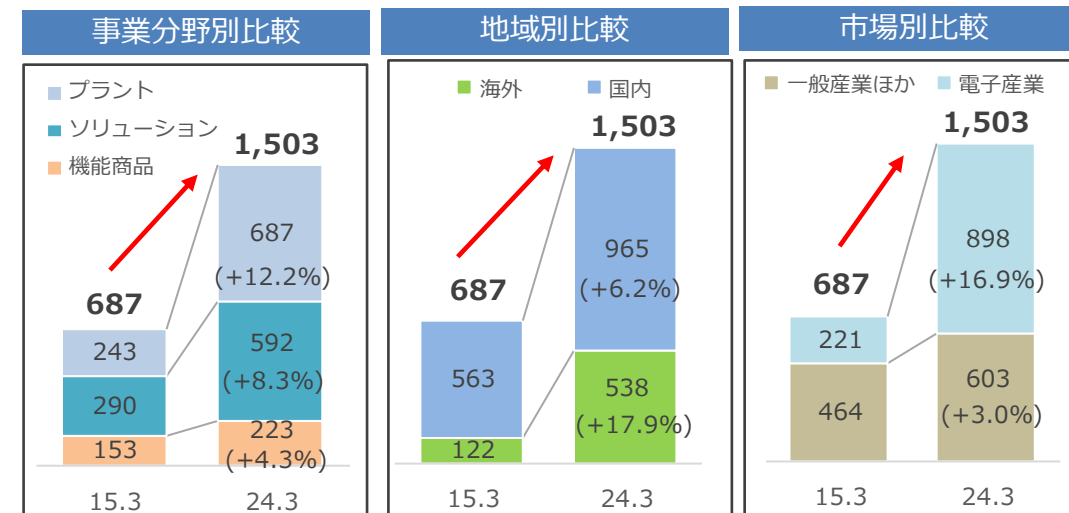
中長期計画：直近10年間の振り返り

(単位：億円)

業績の推移(2015.3~2024.3)



売上構成の比較(カッコ内はCAGR)

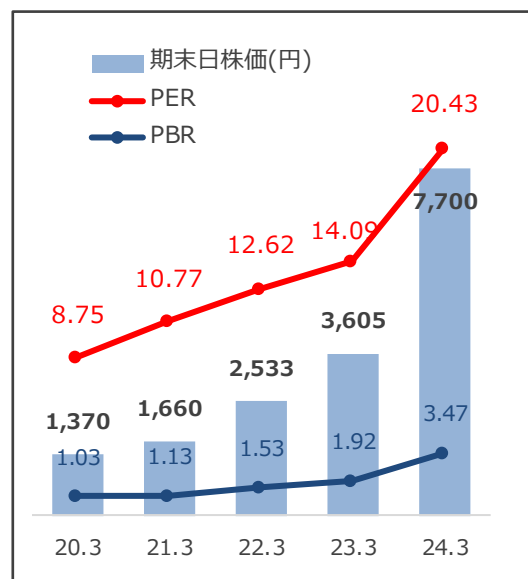
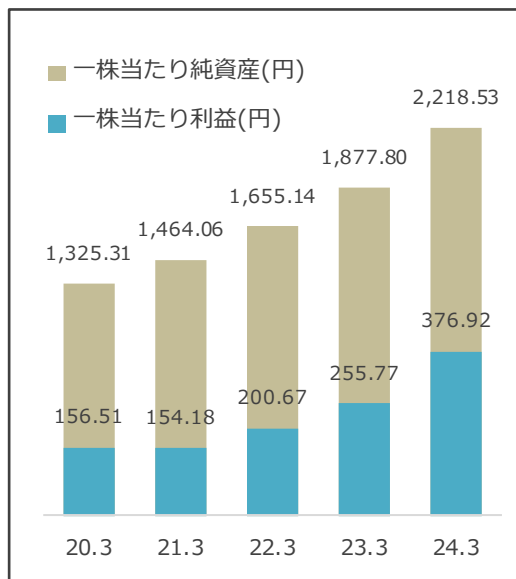


●直近10年間の振り返り

- ・プラントの売上拡大に伴ってソリューション・機能商品の売上も成長
- ・国内・海外とも電子産業向け中心に成長、海外は台湾・中国・マレーシア・北米などが拡大
- ・収益性の改善はソリューション・機能商品の売上拡大に加え、プラント案件の採算性向上が寄与

中長期計画：企業価値向上への取り組み

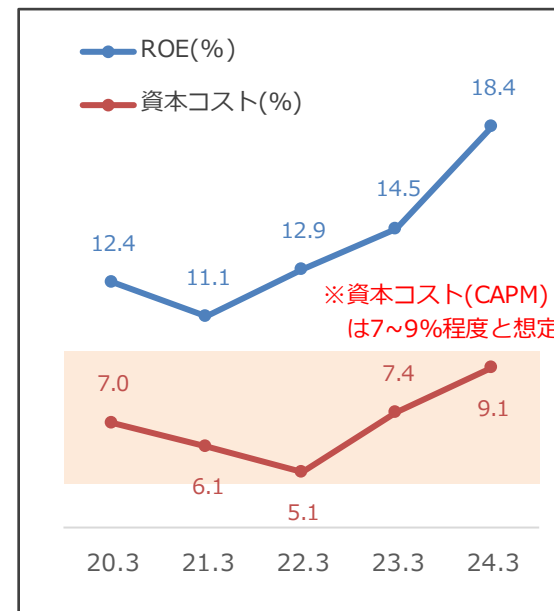
一株当たり指標と株価・PER・PBRの推移



■ 売上・利益の伸長など業績の拡大に加え、増配の継続など株主還元施策やIR活動の強化などにも注力。株価も上昇傾向で推移しており、PER・PBRも大きく改善

※PBRは「期末日株価÷一株当たり純資産」、PERは「期末日株価÷一株当たり純利益」で計算

資本コストとROE



● ROEの分解(24.3期)

ROE	=	収益性	×	効率性	×	レバレッジ
18.4%		11.5%		0.87回転		1.85倍
		当期純利益率		総資産回転率		財務レバレッジ

【ROE改善方針】

- ・ 売上の拡大や利益率の改善
- ・ 売掛金や在庫の削減などによる資金効率の改善
- ・ 株主還元の拡大や成長投資への借入金活用など資本構成の最適化

■ 株価や金利の動向を背景に資本コストは9%程度まで上昇も当社ROEが上回る状況続く。中長期計画では資本コストを上回る**ROE12%以上を必達目標**とし、さらなる改善を目指す

※資本コストはCAPM($R_f + \beta(R_m - R_f)$)で算出

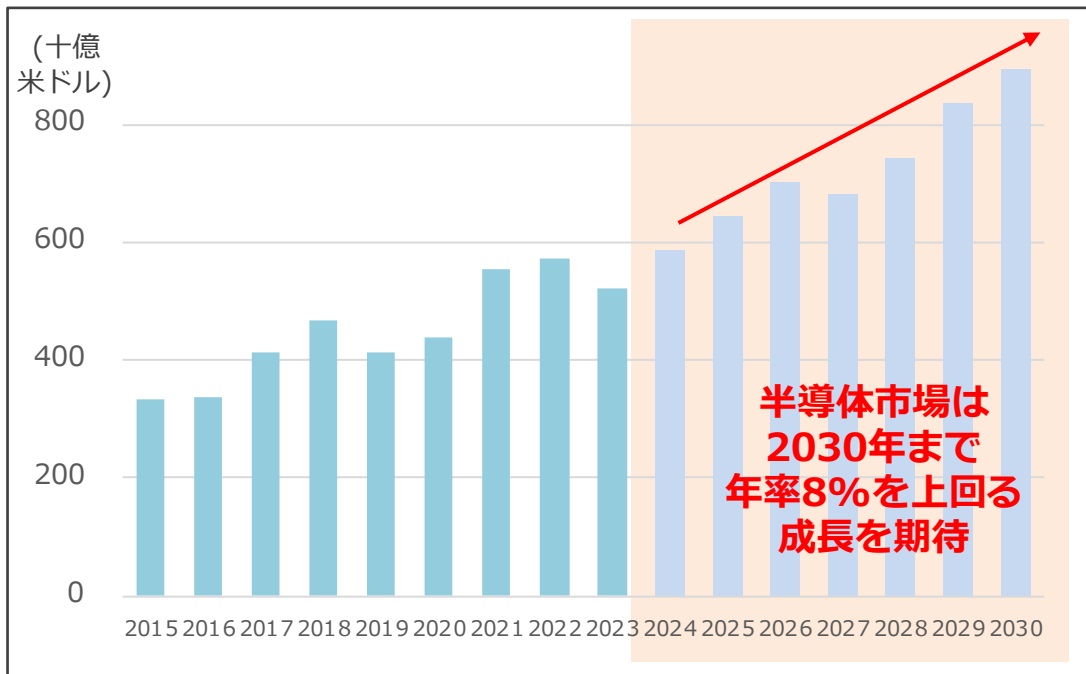
R_f (リスクフリーレート)：長期国債(10年)利回り：0.8%前後

β (β値)：株価変動率(3年推計)：1.6前後

R_m (マーケットリスクプレミアム)：株式期待利回り：6%前後

中長期計画：半導体市場の見通し

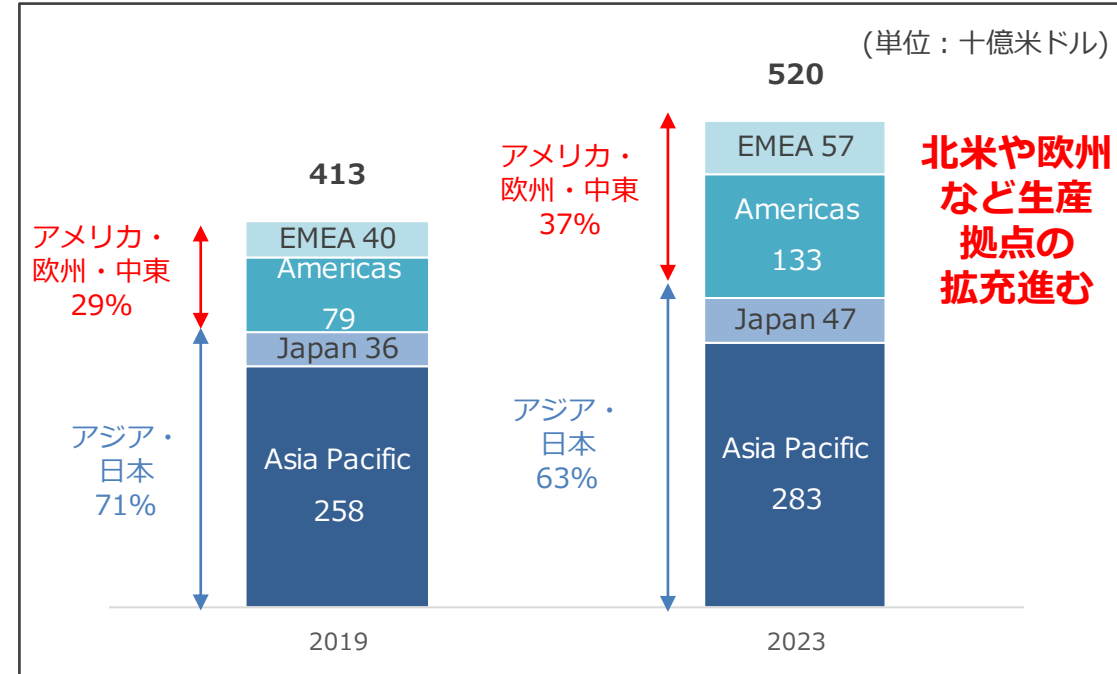
半導体市場予測(WSTS予測より当社想定)



■半導体市場は拡大予測

A I やEVなどの進展により2030年までの半導体市場は2015～2023年までの成長率を上回る成長を期待。これに伴ない半導体材料や電子部品などの需要も拡大

地域別半導体市場(WSTS調べ)

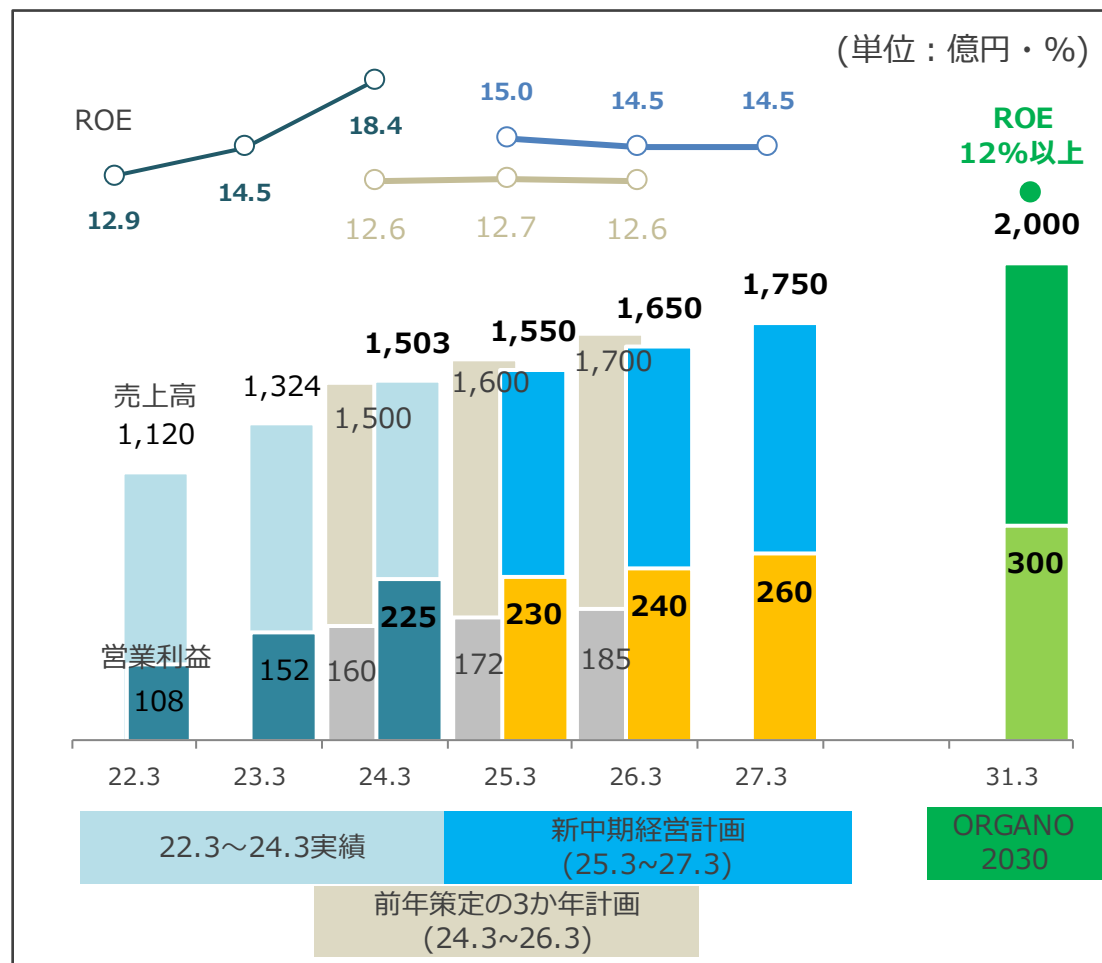


■半導体サプライチェーンの再構築

米中摩擦や台湾問題など地政学リスクを背景に、半導体サプライチェーンの世界的な再構築が進む。アジアからアメリカ・欧州などに生産拠点を移管する動きが進む

中長期計画：計画の概要

中長期計画の目標値



■ 中長期計画の概要

- ・ 長期計画“ORGANO2030”に基づき、毎年3カ年の計画をローリングして策定
- ・ 長期計画は2030年度に売上高2,000億円以上、営業利益15%以上、ROE12%以上を目指す
- ・ 3カ年計画では2026年度に売上高1,750億円・営業利益260億円の達成を目指す

■ 次期3カ年計画

- ・ 国内外で計画される半導体関連の複数の大型案件の受注を想定、現状の「延長線」で計画
- ・ エンジニアリングキャパシティの拡充を推進
- ・ 設備保有型契約や各種メンテ・薬品などソリューションや機能商品の拡大にも取り組む

■ 長期計画“ORGANO2030”

- ・ アメリカでの展開などグローバル戦略を強化
- ・ 高度分離精製や水回収など、省エネや脱炭素などサステナビリティ課題に貢献する新たなソリューションサービスを拡充
- ・ M&Aなどインオーガニックな成長にも取り組む

海外事業展開

ヨーロッパ

- ・現時点で拠点はない
- ・欧州半導体法に関連する顧客の投資動向に合わせ進出可否検討

中国

- ・半導体向け中心に事業展開
- ・米国の規制動向など踏まえながら事業体制を強化

アメリカ

- ・2021年設立の現地法人の強化を進める
- ・半導体向け水処理に加え、水以外の分離精製やその他のビジネス展開も図る

東南アジア

- ・マレーシア、ベトナム、タイ、インドネシアで事業展開
- ・現地エンジニアを育成し、グローバル人材としても活用

台湾

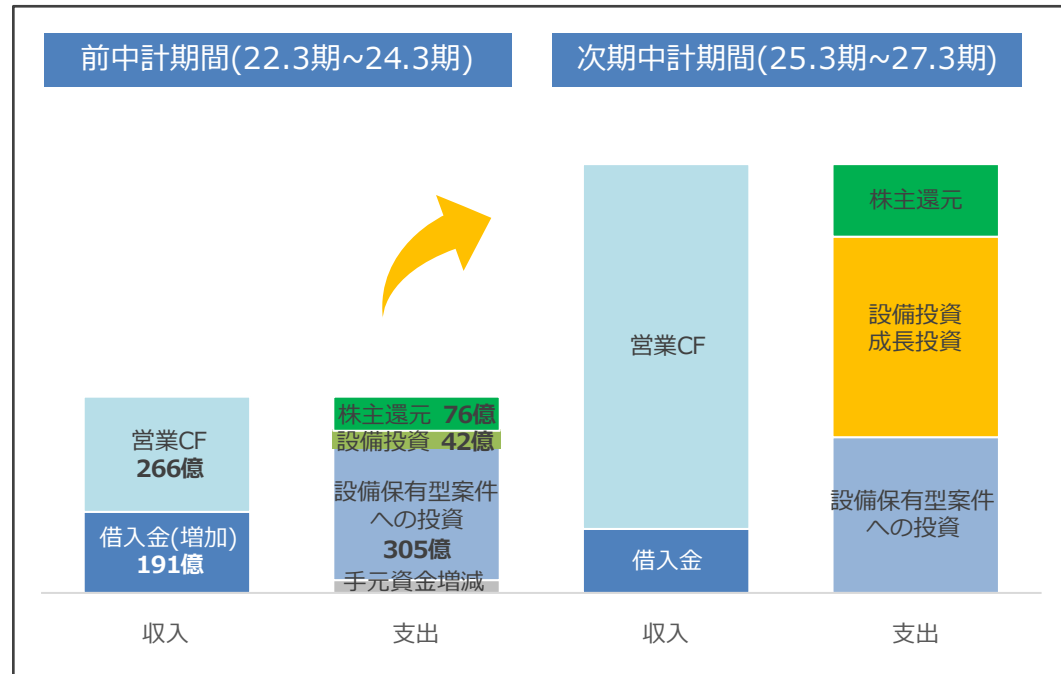
- ・最先端の半導体投資に向けた開発を進め、技術的な優位性を強化
- ・日、米、欧などへの展開にも対応

日本

- ・大型の半導体関連投資に対応すべく、エンジニアリングキャパシティの強化やソリューション体制の整備を進める

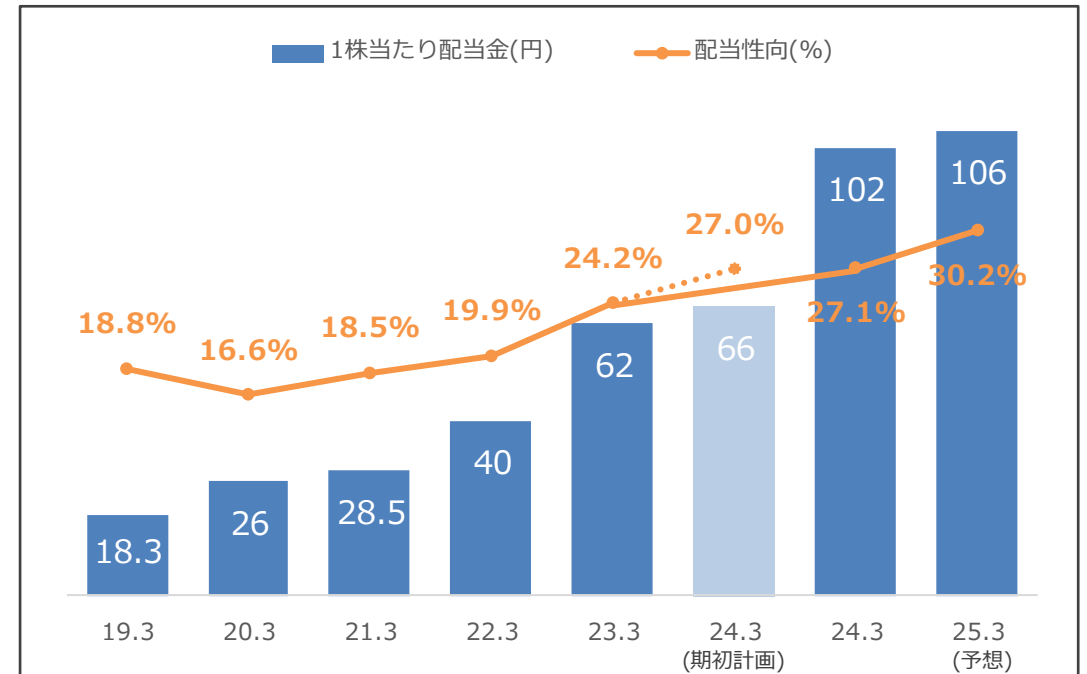
中長期計画：キャピタルアロケーションと株主還元施策

キャピタルアロケーション



- 成長投資として人的資本や研究開発、デジタルなどへの投資に加え、M&Aなどインオーガニックな成長に向けた投資の拡大を図る。設備保有型への投資は前中計期間と同程度を想定
- 現預金は現行水準である月商の1.5~2.0倍程度を目安とする。株主還元も強化しつつ、借入金も活用し成長投資を拡大

株主還元施策



- 24.3期は業績予想の改善に伴い配当予想も増額修正。期初計画の配当性向を維持し年間配当を102円まで増額。25.3期は配当性向30%超となる年間106円配当を計画
- 増配の継続と配当性向30%以上の水準を目標とし、株主還元と成長投資の両立と拡大を目指す

お問い合わせ先

経営統括本部 経営企画部 IRグループ

ホームページ

<https://www.organo.co.jp>

お問い合わせフォーム

<https://www.organo.co.jp/contact/>

IRメールニュースのご登録 (New)

<https://www.organo.co.jp/ir/mail-news/>

本資料における業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。